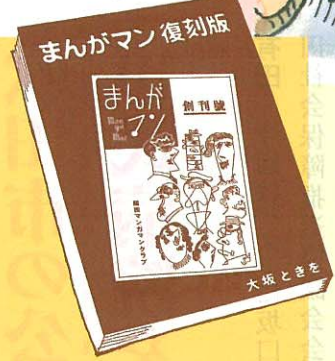




漫画家 大坂ときをさん



### 勝手に吹田遺産

その8

昭和35年の住宅地図、吹田市川面（いまの内本町3丁目）に「大阪ハック社、江上」の文字が見られる。ここが漫画家大坂ときをさんの自住宅アトリエであった。

1993年に発行された『手塚治虫と路地裏のマンガたち』（中野晴行著）によると戦後まもない昭和21年5月、この吹田の大坂ときをさん宅から、全国にむけて漫画雑誌「まんがマン」が発行されている。執筆陣はスマートな線の小島功、ヤネウラ3ちゃんの南部正太郎、関西の酒井七馬と言った漫画史に残る大御所たちだ。吹田発「まんがマン」の発刊は東京の「VAN」(昭和21年5月)とならんで戦後のまんが雑誌のさきがけとなった。

「まんがマン」の成功で「関西まんがマンクラブ」が結成され、川面にあった大坂と

きをさん宅に若い漫画家たちが集まった。手塚治虫、東浦美津雄、田中正男といった新鋭たちもいた。こうして戦後の大阪での第一次まんがブームがはじまり、手塚治虫といっく大漫画家を生み出していく。

漫画家の大坂ときをさんは現在島本町に住んでおられる。「大阪で、戦後すぐの漫画出版を語れるのはボクだけになっちゃった。いま岩波書店からたのまれて、『まんがマン』当時のことを書いています。やっぱり今のつちに書いておかない」と語る、背筋のぴんとした85歳。「この夏は京都下賀茂神社の古本まつりで2日間似顔絵を描いてね、暑い日で大変だった」現役なのである。2005年には「まんがマン・復刻版」を出版、日本漫画家協会賞・特別賞に輝いた。

画・文 高宮 信一



副道を作らなければ菜園は守れたのだが...

大気汚染も心配だ。「この図面を見てください。あの菜園のうち、道路本体にかかる部分はわずかで、大半は副道と一般国道からの下り口になるのです。北巢本地区の前後250メートルの所にも各々下り口ができる予定ですから、なにもこんな短いピッチで3箇所も下り口を作らなくても良かったはず。何か「菜園を狙い撃ち」にしたような計画です。」確かに松本理事が言うように、

問題の土地を収用しなくても、道路はできる。

**第2京阪道路は必要か いろいろ疑問が...**

この問題を取材して、さまざま疑問が浮かぶ。整理すると、①そもそも第2京阪道路は必要なのか？②必要だとしたら、あ

れほど巨大な道路にするべきなのか？③問題の土地に、わざわざ副道を作るのはなぜ？④こうしたことを疑問として、土地の所有者が裁判をしていた最中に、強制収用したのはなぜ？

橋下知事のコメントにも多数の「？」がつく。保育園の菜園を取り上げたり、私立高校への助成金を減らしたり、吹田市の国際児童文学館を廃館にする一方で、箕面市の「水と緑の健康都市開発」や「安威川ダム建設」、御堂筋のイルミネーションなどは積極的に進める橋下知事。その正体は「子どもを泣かせ、政府や財界を笑わせる」知事であるようだ。

**ああ無情！橋下知事が「2週間待てずに」土地収用 無駄な公共事業、菜園が「公害道路」に**

# 園児が育てた菜園 サツマイモ収穫前に 大阪府が土地を「強制収用」

北巢本保育園 門真市



本当に、このような巨大道路が必要なのだろうか？

「あと2週間待ってください。ここは保育園の菜園です。園児が育てたサツマイモが植わっているんです！」。門真市北巢本保育園の松本剛一理事の声が怒りに震えている。芋畑に横たわり、必死で阻止しようとする保護者たち、そんな中、約100名の大阪府職員が粛々と土地を「収用」していく...

2008年10月16日、大阪府による行政代執行の様様を



松本 剛一理事

父母や保育士が 必死で阻止する目の前で

テレビでご覧になった方も多いだろう。保育園児たちが心待ちにしていた芋ほり交流会は10月31日に予定されていた。しかし橋下知事は、無情にも「2週間が待てずに」土地を収用してしまっただ。

「取り消しの裁判」中、 待てなかったのは橋下知事

インタビューで知事は、「(第2京阪道路の)工事が遅れば2週間で6〜7億円の損害が出る。どうして芋ほり交流会を2週間早めていただけなかったのか」とコメント。

しかしこのコメントは通らない。実は松本理事は、強制収用を不服として大阪地裁に対して「収用採決の取り消し」と「執行停止」を申し立てていた。菜園が取り上げられた10月16日は、まさに裁判中の出来事。「執行停止申し立て」の即時抗告についての大阪高等裁判所の決定は10月30日に下された。つまり「2週間待てなかったのは、知事のほうなのだ。」

知事は「園児の涙を利用して収用に反対するのは一番卑劣な行為」ともコメントした。でもちよつと待って！08年



強制収容される前の菜園と第2京阪道路

土地を収用しなくても 道路は可能だ

そもそもこの「第2京阪高速

4月17日、大阪府の市町村長を前に「僕だって一生懸命頑張っているのです」と、涙したのは知事ではなかったか？

そもそも「楽しみにしていた芋ほり交流会」が無理やり中止にさせられ、親しんできた畑を奪われたのは、園児なのだ。悲しくて涙を流すのは当たり前だし、その園児の涙を見て、保育士たちが「悔し涙」を流すのもまた、自然な感情ではないか。子どもが笑う大阪、を公約にして当選した橋下知事だが、実行するのは「子どもが泣く」とばかり。

**「園児の涙利用」 橋下知事が批判**

第2京阪道用地収用 大阪府の橋下知事は17日、第2京阪道路の用地買収に応じなかった門真市の北巢本保育園の畑を行政代執行で

「涙を利用」したのはどちらだろうか？ (朝日新聞10.17付夕刊)

て3階には6車線の高速道路、2階は4車線の一般国道というから驚く。今さらこんなバブリーな道路が本当に必要なのか？という当然の疑問がわいてくる。国は当初一日8万台の車が通過すると予想していたが、景気低迷&少子高齢化社会を勘案し、4万7千台に下方修正した。

「4万7千台という予想も信じがたいですね。今後は人口が減っていく時代、地球温暖化に対する対策が必要ときに、この巨大な道路にそれほど必要があるとは思えません。これも無駄な公共事業ではないでしょうか」と前出の松本理事。門真市のような人口密集地で、このような巨大道路ができると、